

市民公開シンポジウム (参加費無料)

# シックハウス症候群・

# 化学物質過敏症・電磁過敏症の

# 最新知見と今後の展望



2017年 6月25日 (日) 13:15-16:15

東海大学高輪キャンパス 2号館・2B101 教室

主催: 日本臨床環境医学会 共催: 早稲田大学応用脳科学研究所

協賛: 全国保険医団体連合会、室内環境学会、日本環境学会、東海大学

お問い合わせ: 東海大学医学部分子生命科学 0463-93-1121 (内 2607)

## ◆プログラム◆

座長：石川哲（北里大学名誉教授）、坂部貢（東海大医学部長）、相澤好治（北里大学名誉教授）、吉野博（東北大学総長特命教授）

- |                             |                                   |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 疫学調査からみた現状と今後の展望         | 北條祥子<br>早稲田大学応用脳科学研究所生活環境と健康研究会代表 |
| 2. アレルギー専門医からみた現状と今後の展望     | 西間三馨<br>独立行政法人国立福岡病院名誉院長          |
| 3. 成人過敏症患者の診療現場からみた現状と今後の展望 | 水城まさみ<br>独立行政法人国立盛岡病院副院長          |
| 4. 小児過敏症患者の診療現場からみた現状と今後の展望 | 角田和彦<br>かくたこども&アレルギークリニック院長       |
| 5. 過敏症患者の歯科診療現場からみた現状と今後の展望 | 青木真一<br>秋田県協和町歯科診療所院長             |
| 6. 看護相談室の看護師からみた現状と今後の展望    | 今井奈妙<br>三重大学大学院医学系研究科看護学専攻教授      |
| 7. 環境システム工学から見た現状と今後の展望     | 柳沢幸雄<br>東京大学名誉教授                  |
| 8. 健康リスク学から見た現状と今後の展望       | 東 賢一<br>近畿大学医学部環境医学行動科学教室准教授      |
| 9. 法律家からみた現状と今後の課題          | 中下裕子<br>コスモス法律事務所弁護士              |
- 総合討論（会場との質疑応答など）

### 市民公開シンポジウムの開催にあたって

近年、農薬・殺虫剤・除草剤の開発により農業は効率化し、パソコン、スマホ、無線ランなどの普及により情報入手・発信が劇的に容易になり、私達は便利で豊かな生活を過ごせるようになりました。その反面、今、世界各地で、“環境過敏症（環境不耐症）”と呼ばれる健康障害を訴える人々の存在が問題になり始めています。環境過敏症とは、普通の人は何でもなような身の回りの微量な化学的要因（タバコ煙・化粧品・薬剤・殺虫剤・芳香剤など）、生物的要因（カビ・ダニ・花粉等）、物理的要因（光・音・電磁波など）により、多臓器に多彩な症状が現れる健康障害の総称です。アレルギー疾患、シックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症がその代表であり、これら4者は密接に関係していることが報告されています。また、環境過敏症は、“生活習慣病と同様に、生活環境中の様々な環境要因が、遺伝要因、身体要因、などと複雑に絡みあって発症する健康障害である”と指摘する研究者が増えています。

アレルギー疾患は日進月歩で研究が進み、病態解明、診断法・治療法が確立しつつあるものの、まだまだ科学的に不明なことも多いです。シックハウス症候群は対策が進み、ある程度改善されてきましたが、現在、診断基準や規制値の見直が議論されています。一方、化学物質過敏症と電磁過敏症は科学的に未解明なことが多いため、“本態性環境不耐症”とも呼ばれており、医療関係者や研究者の間でも、十分認知されているとはいえない状況にあります。特に、電磁過敏症は、発症者が症状発現要因と訴える身の周りの電磁場発生源は、放射線、光、高周波、中間周波、超低周波まで様々な微弱な電磁波（電磁場）であり、発症要因と症状発現の因果関係が証明しにくく、世界的にも研究はようやくスタートラインについた段階です。

私は、化学物質過敏症や電磁過敏症も、“医療関係者や研究者が、市民に、正しい知識や情報をわかりやすい形で提供し、個人が健康障害となりうる要因を推定し回避すれば、アレルギー疾患のように患者が急増する前に、発症を予防できるのでは”と考えています。また、“個人レベルでできる対策には限界があるため、社会全体で対策を検討すべき時期にきているのでは”と思います。そして、社会的対策のためには、様々な専門分野の研究者が情報を共有し、苦しんでおられる患者さんや市民の皆さんのご意見を聞きながら検討することが不可欠と考えています。

そこで、今回、その最初の試みとして、市民公開シンポジウムを企画しました。疫学、臨床医学、看護学、健康リスク学、工学、法学等の分野から、長年、この問題に取り組んでこられた9名の先生方にお話しいただき、総合討論では、環境過敏症問題解決に向けて取り組むべき事項について、皆様と一緒に議論したいと思います。盛りだくさんの内容ですが、最後までお聞きいただき、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

コーディネーター：北條祥子（早稲田大学応用脳科学研究所・生活環境と健康研究会 代表）